

被災地方言会話集

— 宮城県亶理郡山元町 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県亶理郡山元町

収録日時 2012（平成24）年7月11日

収録場所 宮城県亶理郡山元町山寺（話者A宅）

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1931（昭和6）年	（収録時81歳）	[B・Cの親戚]
B	女	1935（昭和10）年	（収録時77歳）	[A・Cの親戚]
C	女	1934（昭和9）年	（収録時78歳）	[A・Bの親戚]
D	女	1988（昭和63）年	（収録時24歳）	[調査者]

話者出身地

A	山元町花釜（ハナガマ）地区
B	山元町花釜（ハナガマ）地区
C	山元町花釜（ハナガマ）地区

【震災のときのこと】

話し手

A	男	1931 (昭和 6) 年	(収録時 81 歳)	
B	女	1935 (昭和 10) 年	(収録時 77 歳)	
C	女	1934 (昭和 9) 年	(収録時 78 歳)	
D	女	1988 (昭和 63) 年	(収録時 24 歳)	[調査者]

001B : モ、タイヘンダッタヨネ。

もう、大変だったよね。

002A : シーダネー、(B シー) タイヘンナンダ。

そうだね、(B うん) 大変なんだ。

003B : スコ[°] イ、ホントニ。

すごい、本当に。

004C : シー、アノー、オー、セーカズセンターデ クチョーサン、ント イデ、
ん、あの、おー、生活センターで 区長さんと いて、

エー、アノ、ツナミ ゴジューメーターク[°] レ マックロク

えー、あの、津波[が] 50メートルぐらい 真黒く

シー、(C ナッテキタ) アカ[°] ッタノサ。(C ハー) アー ホンデ

んー、(C なってきた) あがったのさ。(C はあ) あー それで

005B : マズノギノ ウエダモンネ。

松の木の 上だもんね。

006A : ウン、ズーット マズノギノ (C ハー) ウエマデ。(B ソー)

うん、ずっと 松の木 (C はあ) 上まで。(B そう)

007C : ソノ マズノギノ ウエマデイク[°]

その 松の木の 上まで行く?

008B : シー。
うん。

009C : ホー ミダゴドネーバ。 [1]
へえ 見たことないわ。

010A : ホーシテ、コンド クチョーサンヌ (C ホー) シー コンデ
そうして、今度 区長さんに (C へえ) んー これで

ゲンカイダガラ スッパズスルドナッテ {笑}
限界だから 出発するとなつて {笑}

スッパズ ス ス スタノ。
出発 × × したの。

011B : アー ソーカー。 (C シー、ナルホド)
ああ そうか。 (C うん、なるほど)

012A : シー。 ホー (B シー) スターケー アノ、 (C ソーカー)
うん。 そう (B うん) そしたら あの、 (C そうか)

オー センロノ シタン トゴヌ、 (B ン) ショーンボーポンプ
おー 線路の 下の ところに、 (B うん) 消防ポンプ

ミズド イッショニ ハイッテダノ。 (B アー) (C アー)
水と 一緒に 入つたの。 (B ああ) (C ああ)

コンド、コゴサ ショーンボーノシタジ フタリ、ヘッテダンダゲド、
今度は、ここに 消防の人たち 二人、入つてただけど、

コイズ タスケッド、オラモ スヌガラ。
これを 助けると、俺も 死ぬから。

013B : スヌガラ。 {笑} (C アラー)
死ぬから。 {笑} (C あら)

山元町 自由会話

014A : トユー、ユーオモッテ、マ ハシッタガラ。(B シー、シー) (C シー)
という、こう思って、 まあ 走ったから。(B うん、うん) (C うん)

ンダガラ、アノ ツナミノ ハヤサワ、ヤッパリー オ オ オレ、
だから、 あの 津波の 速さは、 やっぱり × × 俺、

(B ホントダ) エ クチョーサンカ° ゴンズッキロデ、エー、ホレヨリ
(B 本当だ) × 区長さんが 50キロで、 えー、それより

オソイゴッタラバ、(B シー) ツナミニ オッカゲラレッカラッテカダッテ、
遅ければ、 (B うん) 津波に 追いかけるからって言って、

(B シー シー) (C シー) テーイッペダッタオンナ。
(B うん うん) (C うん) 手一杯だったもんな。

015B : シー。(A アー) (C シー) ンダヨネ。
うん。(A ああ) (C ふーん) そうだよね。

016A : シー。 シー、コンドノ バワイワ、ソーシテ、{笑} イズバン
うーん。 んー、今度の 場合は、 そうして、{笑} 一番

サイコ° ダッタガラ、(B ウーン) ホーステ、エー ウエノ タンボノ
最後だったから、 (B うん) そうして、えー 上の 田んぼの

マンナガヌ、ノードーッテシュー (B ン) ノ、アンノサ。ミズ。
真ん中に、 農道っていう (B うん) の、あるのさ。道。

(C シー) (B ノードー) コゴノ ニステヌ、シー ホリアンノ。
(C うんうん) (B 農道) この 西手に、 んー 堀あるの。

(B シー) (C シー) ホノ ホリ、アノ シグイドゴノ カサノ、[2]
(B うん) (C うん) この 堀、 あの 低いところの 笠野、

オー オ ガラ ハンタイニ ジャグリューシテ
×× × から 反対に 逆流して

(B ギャグリューステキタンダオンネ) (C ホー) イッペンニ
(B 逆流してきたんだもんね) (C ほう) いっぺんに

ナツテクルンダ。(B ン) (C アー) ホーステ、エー、マズ、
なってくるんだ。(B うん) (C ああ) そうして、えー、まあ、

ミナミド キタガラ イッペンニ ナツテキテ。(C ハー、シー)
南と 北から いっぺんに なってきて。(C はあ、うーん)

017B : ウズ マイッタモノネ。(A ンダ)
渦 巻いてたものね。(A そう)

ウズマギニ ナッタノ。ソー。(A ウズマギニ ナツテ) ホーボーガラ
渦巻きに なつたの。そう。(A 渦巻きに なつて) 方々から

アノー、ナミ、ネ。(A ン) ツナミ アズマッテネ。
あの一、波、ね。(A うん) 津波 集まってね。

018C : ソノ ツナミ ミネガラ ワガンネゲッド。
その 津波 見ないから わからないけど。

019B : シー、(A ホースター) ミナガッタ。
ふーん、(A そうして) 見なかった?

020C : ミナイ。
見ない。

021B : ハヤグ ニゲダノ。
早く 逃げたの?

022C : ハヤグ ニゲダ。
早く 逃げた。

023B : シー。
ふーん。

024C : ゼンゼン。

全然。

025A : ホーシテ一、 マンズ、 ホンドギー オラ サイコ° ダゲントモ、
そうして、 まあ、 その時 俺 最後だけれども、

ウエガラ ログニンバリ クルマデ クルシト アンノサ。(B ン一)
上から 六人ばかり 車で 来る人 あるのさ。(B うん)

(C ハー) ホーシテ アンダラ ナンダッテ カダッタツケ、

(C うん) そうして あんたら なんだって 言ったら、

(C ハンタイニ ユー ソナ キタノ) ホン一ニ、

(C 反対に こう そんな 来たの?) 本当に、

タスケサ イク° ンダツツ一ノ。

助けに 行くんだっていうの。

026C : ア一、 ダメダベナー。 {笑}

あ一、 駄目だろうなあ。 {笑}

027A : イヤ タスケサ イク° ノ イ一 (C イ一) ゲントモ、 (C ン一)

いや 助けに 行くの いい (C いい) けれども、 (C うん)

アンダラ イマスコシ イク° ド シヌンダドッテ カダッテアンダ。
あんたら もう少し 行くと 死ぬんだよって 言ってたんだ。

(C ン一) ホンダッテ ナイデツケントモ (C ン一) ホ ホッカラ

(C ん一) それだから 泣いてるけれども (C ん一) × そこから

ヤンネデ モドシタノ。

やらないで 戻したの。

028C : ア一 (B ンダオンネ)

ああ (B そうだよ)

山元町 自由会話

029A : ンー。ンダッテ ッシャーネンダワ。イク°ド (B ソー)
うん。だって 仕方ないんだわ。 行くと (B そう)

030C : スク° サイク° ヨーナモンダ。
死ににいくようなもんだ。

031A : ン スク° サイク° (B ソーソー) ドオナジダゲバ {笑}
ん 死ににいくの (B そうそう) と同じだから {笑}

(B スク° サイク° ヨーナモンダ)

(B 死ににいく ようなもんだ)

032C : タスケッテ ナッタッテ ジブンガナー。
助けようと したって 自分がなあ。

033A : ヤッパリ、アイナドギワ ミンナ ムズーナンダナー。
やっぱり、あんな時は みんな 夢中なんだなあ。

034C : ンー。 (B ムジュー) (A ンア) タスケデヤクケドモッテネー、
うん。 (B 夢中) (A うん) 助けてやろう と思ってねえ、

(A ンー) イグキニナツタンダゲントモ (A ンダガラ) サー。

(A うん) 行く気になったんだけれども (A だから) さあ。

035A : ホーシテ
そうして

036C : ハー。
はあ。

037B : ダガラネ、アノ、サイガイヨーノ イロイロ ソロエデンノ モッテク°、
だからね、あの、災害用の いろいろ 揃えてるの 持っていく、

ダノナン ソーユーネ、ヨユーナンテ ナイ。 (C ウン ンダネ)

だの×× そういうね、余裕なんて ない。 (C うん そうだね)

ワダシワ ソー オモッタネ。
私は そう 思ったね。

038A : ナンニモ ネンダ。
何にも ないんだ。

039B : ウン、ナイネ。
うん、ないね。

040A : ン、 (C ウン) ナイナイ。
うん、 (C うん) ないない。

041B : ホンットニ。
本当に。

042C : ニワガンダガラナー。
急にだからなあ。

043B : ウン、カラダヒトズダワ。
うん、体一つだわ。

044C : ンー。モドッタヒトバリダベ、ナグナツタリシタノ。
うん。戻った人だけだろう、 亡くなったりしたの。

045A : エー、ウズノシタズモ ナンヌモ モッテイガネデ {笑} (C ナンニモ)
えー、うちの人たちも 何にも 持っていかないで {笑} (C 何にも)

046B : ダガラ ワダシナンテ (A) ハダシダヨ。
だから 私なんて (A) 裸足だよ。

047C : オ。 {笑} オラ イズモ ナラベデッカラ コッカラー モノオギノ
お。 {笑} 私 いつも 並べてるから ここから 物置の

コッカラ ナンカ ヨーフッガラ ナカ° ックズ ハイダマンマ スク°
ここから なんか 洋服から 長靴 履いたまんま すぐ

ニケ° デキタンダガラ。
逃げてきたんだから。

048B : アダシ ハダシ。
私 裸足。

049C : ダ コノ ナカ° ッカズ イマデモ ハイデル。 {笑}
だから この 長靴 今でも 履いてる。 {笑}

050C : ナカ° ッカズ ハイデ ニケ° ダガラ イマ ソノ ナカ° ッカズ ハイデ、 [3]
長靴 履いて 逃げたから 今 その 長靴 履いて、

051B : デ キューキュータイノヒトサ、
で 救急隊の人に、

052C : スット デダガラ アルケナインダ _____。 (D ンー) [3]
すっと 出たから 歩けないんだ _____。 (D んー)

053B : ウジガラ ドーロマデ オンボシテモラッテ、 (A アー) ソシテ (A アー)
うちから 道路まで おんぶしてもらって、 (A ああ) そして (A ああ)

054C : オジーサン オンボシテナー。
おじいさん おんぶしてなあ。

055B : ナーン、コシヌゲダワ ワダシ。
なーに、腰抜けたわ 私。

056D : ンー。
んー。

057A : ンー。
うん。

058B : コシヌゲダド。 (C ンダサー) シバラグ ウコ° ガンネガッタモノ。
腰抜けたよ。 (C そうさ) しばらく 動けなかったもの。

059C : アレ ミダンデワ。ミダンデ。 オレ ミネガラ イゲッドモサ。
あれ[を] 見たのでは。見たので。 私 見ないから いいけれどもさ。

{笑} ゼーンゼン ミナイ。(B ホンット) ナミワ。(B ウン)

{笑} 全然 見ない。(B 本当) 波は。(B うん)

060A : イヤ、(C ハヤグ ニケ° ダモンナ) コツツノ オバサンモ、
いや、(C 早く 逃げたもん) こっちの おばさんも、

コスヌガシッタノ。

腰ぬかしてたの。

061B : ウーーン、コスヌゲダ。ホンットニ。(A ア) コシヌゲダナンテ、アノー、
うーん、腰ぬけた。 本当に。(A ああ) 腰ぬけたなんて、あの、

ムガシノヒト ヨグ ユツテアゲドモ (C ウン) {笑}

昔の人 よく 言ってたけども (C うん) {笑}

ワダシ ハジメデダ、コスヌゲダナンテワ。 {笑}

私 初めてだ、腰ぬけたなんてのは。 {笑}

(C ドーナッタ、オラ ワガンネ、コスヌゲダラ)

(C どうなった、私 わからない、腰ぬけたら)

アイズガ° コスヌゲダズ。 ウコ° ガンネンダモンネ。 ウン。

あれが 腰ぬけたっていう。動けないんだもんね。 うん。

062A : シーダベ、(B ウコ° ガンネンダモン) ウ ウコ° ガンネツツーンダナ、
そうだろう、(B 動けないんだもの) × 動けないっていうんだな、

(C アルガンネーノ) (B シー) コシヌゲット {笑}

(C 歩けないの?) (B うん) 腰ぬけると {笑}

063C : アルガンネガラ {笑}

歩けないから {笑}

山元町 自由会話

064B : ダガラ、アノ ヤグバノヒト、ホラ、ヒナンスッカラッテ
だから、あの 役場の人、 ほら、避難するからって

ムガエサ キテモラッタケドモ (C ン一) アルガンナインダモノ {笑}
迎えに 来てもらったけども (C うん) 歩けないんだもの {笑}

(A ン一)

(A ん一)

065C : オンボシテモラウ。 {笑}
おんぶしてもらおう。 {笑}

066B : ウン。ソシテ オンブシテモラッテ、 (C ソーソー)
うん。そして おんぶしてもらって、 (C そうそう)

X1サンガラ クルマサ ノッタダガラ。
X1さん[のところ]から 車に 乗ったんだから。

067C : ア コゴ。(A ン一)
あ ここ? (A ん一)

068B : ウン。
うん。

069C : ン一。
ん一。

070B : ダッテ、アッチ トーランネンダ。ネ一 イロイロ (C ン一)
だって、あっち 通れないんだ。 ねえ いろいろ (C ん一)

071A : ソーソー。ウン。
そうそう。うん。

072B : ブロックダノカ° アチクリガエッテッテネ。(C アー ナカ° レデキテンノワ)
ブロックとかが 転がっていてね。(C ああ 流れてきてるのね)

山元町 自由会話

073A : ンダ、トーランネンダ。
そう、通れないんだ。

074B : ソー。
そう。

075C : ジャマニナルモンバリ。(B うん) ナ、ナカ° レデキテ。
邪魔になるものばかり。(B うん) ね、流れてきて。

076B : ソーソーソーソーソー。
そうそうそうそうそう。

077C : ナルホドナー。
なるほどなあ。

078B : ウジ ワダシ ノッテル クルマナンカサー、(C うん) トナリノ ウジノ
×× 私 乗ってる 車なんかさ、(C うん) 隣の うちの
ヤネサ アカ° ッタンダヨ。
屋根に 上がったんだよ。

079C : ワッ。
わっ。

080B : X2サンチノ。
X2さんちの。

081C : コノウジノ ヤネサ アカ° ッタノ。ホガノ (B ン) ウジサ。
このうちの 屋根に 上がったの? 他の (B うん) うちに。

082B : ン。
うん。

083C : ワッ。
わっ。

山元町 自由会話

084B : ソゴサ アカ° ッタノ。
そこに 上がったの。

085C : ワーーーーー。
わあ。

086B : ホンート。 {笑}
ほんと。 {笑}

087C : タイヘンダナー、ニケ° ダヒトモナー。
大変だなあ、 逃げた人もなあ。

088B : タイヘンダッタ、ホンートニソーダ。
大変だった、 本当にそうだ。

089C : ニケ° ダヒトワ タイヘンダ。
逃げた人は 大変だ。

090B : インデモネ、 コーヤッテ、ン、アノ、オガケ° サマデ イギダガラネ。
それでもね、 こうやって、ん、あの、おかげさまで 生きたからね。

091A : ンー。 {笑}
うん。 {笑}

092C : ンー、イズネンナンボダー、ホレ。
うん、一年ちよつとだ、 ほら。

093B : ソーソー。 {笑}
そうそう。 {笑}

094C : ンー。
んー。

095A : ント、イママデ エー、ワタシラモ ゴミッショウサ [4] イッテルシトデ、
んと、今まで えー、 私らも ゴミ拾いに 行ってる人で、

山元町 自由会話

(B ウン) ヤッパリ タイケンダン オシェデケロツ

(B うん) やっぱり 体験談 教えてくれっていう[のが]

アッタンダгентモ、タイケンダンナンテ ゼツタイ シャベンネッテ。 {笑}
あつたんだけども、体験談なんて 絶対 しゃべらないって。 {笑}

ホーンナ ナグナッテルシト ウントアッカラ、(B ウーン)
そんな 亡くなっている人[が] うんとあるから、(B うーん)

ホンナ (C オハナ) チノドグデ、(C オハナシデギナイツツーノ)
そんな (C ×××) 気の毒で、(C お話しできないっていうの?)

アノヒト ナニカダルナンテ スアッテガラ ワガンネガラツツテ
「あの人 何を言う」なんて 言われては 駄目だからってって

(C アソー) (B ウン、ウン) シャベンネッテアナ。(B シー)

(C ああそう) (B うん、うん) しゃべらないでいるな。(B うん)

096C : ハナシェナイツツーゴドナー。
話せないっていうことね。

097A : ン。(B シー)
うん。(B うん)

098B : インデモネ、ヤッパリ (A シー) コー、アズマルツチャ、ホーボーガラ。
それでもね、やっぱり (A んー) こう、集まるじゃない、あちこちから。

ソスットネ、ヤッパリ、デルンダワ。コーダッタ アーダッタッテネ。
そうするとね、やっぱり、出るんだよ。こうだった ああだったってね。

099A : シー、ヤッパリネー。
んー、やっぱりねえ。

100B : シー。
うん。

宮城県亘理郡山元町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 ミダゴドネーバ

「ミダゴドネー（見たことがない）」、「ワ（よ）」の「ワ」が「バ」（ $[\beta a]$ 両唇摩擦有声音）のように発音されたものと考えられる。

〔2〕 カサノ

山元町の沿岸部にある笠野地区。

〔3〕 050C、052Cの発話は調査者Dを見ながら発話している（特に050Cは、それを示すために049Cと分けた）。BとCが別々に話しているため、051B、053Bの発話と入り混じっている。

〔4〕 ゴミッショウサ

「ごみ拾いに」。「拾い（ヒロイ）」から、ヒが摩擦化してシとなり、ロが無声化してショとなったもの。イはあいまいな音となりウに近く発音されたものか。

山元町 自由会話

宮城県亘理郡山元町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
 石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）

文字化担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）